

## はじめに

AI やロボット、ビッグデータや IoT といった技術が発展し、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大など、誰もが体験したことのない速度で社会は変化しており、今現在、答えが見えない予測困難な状況下にあります。そのような社会を力強く生きぬくには、場面や状況を理解し、自ら課題を見つけることが求められます。その上で、必要な情報を見極めながら、自分の考えをまとめたり、相手にふさわしい表現を工夫したり、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見出す力が必要です。

小学校では昨年度から、中学校では今年度から新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領では、新しい時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力が、以下の3つの柱に整理されています。

- ①実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能
- ②未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力
- ③学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養

予測できない変化に主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会の創り手となっていけるよう、これらをバランスよく育むことが求められています。

また同時に、いじめや不登校、暴力行為等の未然防止、早期発見及び対応、適切な支援が学校に求められています。

令和2年度において、交野市教育センターが受けた相談総件数は1712件で、学校やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と緊密に連携を図り、課題の解決に当たってきました。今後も引き続き、児童・生徒、保護者、教職員等からの教育に関わる様々な相談に対して、専門的な知識と経験を持って対応していきます。とりわけ、いじめや不登校等の課題は依然として深刻な課題であり、その解決は急務です。各学校における教育相談体制の一層の拡充、関係機関との連携を支援するとともに、教育センターの相談をはじめとした生徒指導体制をより充実させ、いじめ、不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努めていきます。

交野市教育委員会では、交野市学校教育ビジョン前期計画期間が令和元年度末に終了し、これまでの成果や課題、教育環境の大きな変化を踏まえ、令和6年度末までの後期計画期間の基本計画（工程表）を示した、新たな交野市学校教育ビジョンを令和2年3月に策定しました。今後とも、子どもたちのために、この交野市学校教育ビジョンの実現に向けて全力で取り組んでまいります。

また、交野市ではこれまで、小・中学校9年間の系統性のある小中一貫教育を進めるためにさまざまな取り組みを行ってきました。令和2年3月に改訂した、交野市小中一貫教育指針「交野型小中一貫教育（KATANO STYLE）」において示されている「カリキュラム 学び、交流 交わり、人 育み」の3つを柱とし、令和2年度から市内全中学校区において小中一貫教育を本格実施し、各校区の特色ある取り組みを推進しています。今後は、「4-3-2」の学年の区切りに基づくカリキュラム編成の研究・実践やコミュニティ・スクールの導入を進めることにより、交野市独自の小中一貫教育を充実させることができると考えています。

交野市教育センターでは、小中一貫教育がすすめられる中、教職員の専門的知識・技能と実践的指導力の向上を図るため、キャリアステージに応じた研修の実施、校内研修の活性化への支援等を行います。また、初任者や経験の少ない教職員を対象としたフレッシューズサポート事業や主に5年めの教職員を対象とした授業充実支援事業等を通して、教職員の授業力、指導力の向上をめざした支援を行っていきます。

このように、教職員の指導力・資質向上や教育相談をはじめとする生徒指導体制の充実等、教育センターに求められる役割はますます大きくなっています。今後も、その責務を果たすべく、研修等の内容や相談機能をはじめとする生徒指導体制をより一層充実させ、皆様方のご協力を得ながら、より信頼される教育センターとして、交野市の教育の発展に寄与できるよう努めてまいります。